

誰にでも出来る實驗 (二)

東京女高師附屬小學校主事

堀

七

藏

二六

一 縫針が水面に浮く

成るべく長い縫針を金盥盆を用意する。またピンセットがあれば尙更に結構である。金盥盆に水を入れて机上に靜置する。そして縫針を頭髮にこすつて脂をつける。その縫針をピンセットの先で挟んで、金盥盆の水面に水平にソットのせる。するに縫針は水面に浮き、その縫針の周圍の水面がいくらかくぼんでゐるのを見るものである。

二 貨幣の入れっこ

銅貨でも銀貨でもよいから二人も五六箇用意をする。そしてコップを二箇準備する。このコップは成るべく形の整齊したもので、縁に凹凸のないものを選定するによい。そしてこの二箇のコップを机上に置き、その中に水を一杯注ぐ。縁からこぼれない程度に水を多く入れる。勿論二箇のコップ、何れも初めは乾いてゐるものがよい。ジャンケ



枚なり五枚なり、水を一滴もコップの縁より溢れさせずに

ンをして、それ／＼一つのコップを自分のものゝ定め、その中に貨幣を一枚つつ靜かに投入する競技。水を一滴位でもコップの縁からこぼした方がまけにする。そして三

多く入れたものが勝ちな競争。水は表面張力でコップの縁より著しく盛上がつても、中々こぼれない。貨幣を入れるには、水の表面をかくらんしないやうに、コップの縁の方から斜にすべり込ませるこゝが祕法である。

三 くるく廻る

樟腦の一小片を用意する。これは防蝕劑として使用するのではないから、樟腦の代用としてナフタリンでもなごみ、考へては駄目である。是非純粹の樟腦を必要とする。金鹽に一杯水を入れて静置する。樟腦の小さなものを指でもんで粉にして水面に落す。するに樟腦の粉末は水面に浮び、見てゐる間にくるく廻り出す。あちらにもこちらにも、小さな樟腦がくるく廻り出すもので、誠に面白い。

四 色さまざま

種油でも胡麻油でも、また椿油でもよい。油の一滴を金鹽に入れた水面にたらず。するに油は次第に水面に広がる。だんく油が廣がつて種々の形を現はし、三十分間も千變萬化して止まない。そしてその膜が著しくうすくくなるに、綺麗な色が出る。見る方向によつて綺麗な七色が

現はれる。虹の七色、石鹼玉の色、實に色さまざまで、まここに綺麗なである。

水を口にふくみ、太陽を背にして空に向いて水を吹くに、綺麗な色が現はれる。虹のやうに輪にはならぬが、日光が水滴に當つて七色を現はすこゝは虹と同理である。

五 波模様

金鹽に水を盛りその上に油をたらしして廣がつたものの上から光澤紙をそつゝ水面に置く。するに油の膜が紙につく。之をインキに浸けるか又はインキのローラーを掛けるに油のついたところにはインキがつかないから黒地に白の紋様が現はれるものである。西洋では之をエレオグラフィといふ。

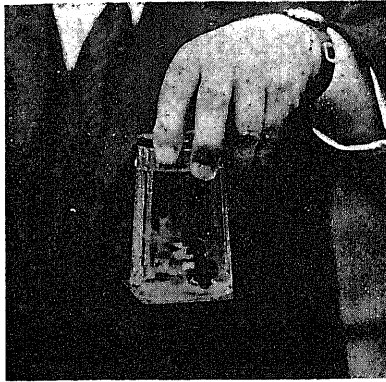
六 水中のしだれ花火

コップに九分目位水を入れたものを机上に置く。その水中に食鹽を一つまみ入れて溶かす。しかしかきまはしてはいけない。そして赤インキをペン先につけてこの水面に落すか、スポイトで一滴、二滴水面に落す。するに赤インキは徐々に水中に沈んで行くに従つて、しだれ花火でも見る

かのやうに、廣がつて行く。赤インキでは螢光を發するの
 で、見る方向によつて黄綠色であり、赤色でありして、中
 中に綺麗である。別に青インキを滴下するに、それもしだ
 れ花火のやうに廣がり、赤と青とで紫になつて見えるにこ
 ろも出来、まことに見事である。

七 空中の金魚

縁のてこぼさないコップ。またはドロップなぎを入れ
 てあつた硝子圓筒を用意する。それから電車の定期券なぎ
 を入れるサックのやうな無色透明なセルロイド板を用意す



る。このセルロ
 イド板はコップ
 の蓋を十分する
 こまが出来るだ
 けの大きさがな
 くてはならぬ。
 コップのやうに
 圓くなくてもよ
 い。方形でも結

構である。それからコップの中に水を入れてその中に小さ
 な金魚を入れて泳がせる。かく用意が出来るに、セルロイ
 ド板は右手の掌の中に挟み、空中の金魚の口上宜しくあつ
 て、右手でコップを被ひセルロイド板でコップを蓋する。
 そしてセルロイド板で蓋した儘、コップを倒にして左手で
 持上げるに、コップから水もこぼれず、金魚は空中で倒に
 したコップの中で平氣に泳いでゐる。それで空中の金魚こ
 いふ手品が誰にも出来る。

セルロイド板で蓋するときは、見物人に両手の掌を
 「ハット」掛聲をかけて開いて見せる。見物人は右手の指が
 セルロイド板を落さないやうに、曲がつてゐるこまには氣
 付かぬ。セルロイド板は無色透明であるから、掌がすき通
 つて見えるので、セルロイド板のあるこまに氣が付かぬ。
 尤もセルロイド板が見物人に氣付かれぬやうに手早く両手
 の掌を廣いて見せるこまは手品として至極肝要である。手
 際よく両手の中に何も無いこまを見せびらかすこまが術者
 の心掛である。

八 空徳利から紅茶

これは空徳利からお酒を出す手品である。しかし學校ではお酒でなく、せいふく紅茶位で我慢せねばならぬ。尤も普通の番茶でもよければ、また唯の水でも差支ない。見る人には色のついた紅茶なぎがよいのである。それでビールさか、サイダー、シトロンなぎはだめ。それは泡がふくらであるが、その譯はあみから考へるに分るゝとして、先づこの手品の種子明し、樂屋の仕事から説明せねばならぬ。空徳利に紅茶をなみく一杯入れて、口のまこころを山盛りにする。そして質の丈夫な日本紙で、徳利の口に蓋をする。紙で蓋するに、紅茶で徳利の口のまこころがぬれる。紙が口のまこころだけ十分ぬれたとき、その蓋した紙を四方から下方に引いて、ぬれた紙で徳利の口を蓋するのである。徳利の口が紙



で十分蓋が出来たならば、餘分の紙で徳利のまはりについでる水滴をふきこつて徳利をお化粧する。それは徳利は乾いてゐて、如何にも中が空であるといふやうに見せるためである。

そしてこの紙で蓋した空徳利、實は中に紅茶を一杯入れてある徳利で、一つのコップ更に白いハンケチをもつて舞臺に現はれる。空の徳利から紅茶を出す手品の口上、宜しくあつて愈々手品にかゝる順序。昔養老の瀧の水は孝子のためにお酒に變化したといふ話もあるが、これは空の徳利からお酒なり紅茶なりが出るといふ不思議な手品、先づ紅茶を出して皆さんに呈上するといふ趣向……まか何にか。出鱈目な口上よろしくあつて、興味をそへるこころが肝要。

愈々空の徳利から紅茶を出す手品。果して徳利が空であるかぎうか。一應疑ふのは人情であるから、本當に空徳利であるか、ぎうか、念のためにためして疑を晴らすこころが手品にかゝる順序である。それで徳利を倒にして、これこの通り一滴も水さへ出ないのであるから、中に紅茶の入



で、徳利を起して机上に立て、置く。そしてまた、

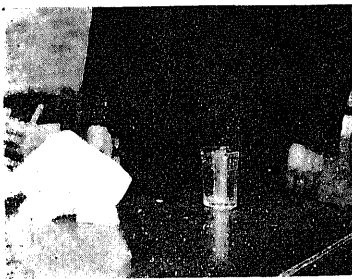
「このコップにもまたこのハンケチにも全くの仕掛がない。これこの通り」ミ、コップもハンケチもあらためて見せるのである。

徳利をあらため、コップもハンケチもあらためたならば、愈々手品にまじりかゝるのであるが、ハンケチを空徳利の口の上にかぶせて、机から五六歩または十歩二十歩遠くはな

つてゐる道理がない。全くの空の徳利。この空の徳利から紅茶を出して皆さんに差上げよう。ミいふ手品。ミいふやうな口上

れて、拍手三回。これは二回でも五回でも勝手放題。またこの手から空の徳利に紅茶を通はせるさか、或は祈つて空徳利に紅茶を湧出させるさか、出鱈目を述べるも手品の口上。

兎に角口上よろしくあつて、左手で空徳利を勿體つけながら持上げ、右手でハンケチの端を一寸つまんで、これも勿體をつけながら下方に引きおろす。ハンケチは決して上方に持ち上げて取つてはならぬ。いろ／＼の口上の間に、ハンケチは徳利の口のぬれた紙でぬれてゐるから、ハンケチを下方に引下げるミ、ハンケチに附著して徳利の口を蓋してゐる紙がハンケチミ共に落下するが、それは見物人には全く見えな



い。ハンケチミ共に徳利の口の蓋がされてゐるから、コップを右手に持上げ、その中に徳利を傾けて紅茶をつげば、實に拍手喝采。手品は上々

の首尾。

この手品に使ふ徳利は勿論お酒の爛徳利、硝子製のものは中が見えていけないから、陶磁器製でなくてはいけない。成るべく徳利



の口のまごころに模様のないもので、徳利全體が白色のものがよいのである。さもないまごころの蓋があるまごころを見物人に見やぶられる心配が多少あるからである。この手品は誰にも出来る筈。それは大氣の壓力で徳利を倒しても水が出ない理由を利用したものである。

この夏の保育講習會

日本幼稚園協會主催で、夏の保育講習會を開くまごころになりました。戸倉講師が、御新作の遊戯を澤山御提供下さいます。又倉橋講師は、保育の實際に關する質疑について御解答下さいますので、共に、私共實際保育にたづさはるものまごころ、見逃しがたき好機まごころ存じます。午前は文部省の保育講習がある筈でございますから、これに御出席の方は勿論、その他、多數の方々の御來會をおまちいたします。

詳細は本紙掲載の廣告を御覽願ひます。